正願寺通信

●本山講ご案内
●正願寺盂蘭盆会法要ご案内
●お盆のお参りについて
●正願寺再建記念のつどいの報告

この『正願寺通信』は、ご縁のあるどなたにもお配りします。ご希望の方はご連絡ください。

発行者:真宗大谷派 正願寺 住職 三保谷 順
〒 442-0862 豊川市市田町北之坪１－１
TEL 0533-86-3659　FAX 86-3668
Mail mipomail@cream.plala.or.jp

疑謗為縁

疑謗を縁と為す

武器を捨て 数珠を持とう。

今回の言葉は、「輝け！お寺の掲示板大賞2022」で、大賞に選ばれた作品です。京都市下京区にある浄土宗龍岸寺のご住職池口龍法師のご長男（11歳）による作品だそうです。史上最年少での大賞受賞です。

もう何十年も前の事ですが、あの養老孟子先生と一緒にお酒を飲む機会がありました。色々な話が出ましたが、仏教への知識の深さに驚きました。その中に「なぜ仏教の戒律は禁止事項ばかりかわかりますか？」というものがありました。人間は悪を犯す存在であり、そのために戒律があると言われました。人間の愚かさを見つめてきた仏教の人間観がここにあるというのです。お釈迦様がお生れになった今のネパールにあった母国も、戦争で消滅してしまいました。その人間の有様の悲しみが、お釈迦様の「殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ」（『法句経』）の一言でしょう。

人間の欲望（武器を作り持つこと）と向き合い、清らかな意欲（本願に導かれ敬う心が育てられること）が与えられる生活、それが「数珠を持とう」なのでしょう。

真宗入門

―御命日のつどいご案内―

6月のテーマ 超入門 「三帰依文②」

「三帰依文」の解説をしています。お寺の法要で、ご法話の始めに講師の方が、拝読する言葉の事です。仏と法と僧の3つの宝に帰依をするという意味です。「帰依三宝」とも言います。真実の教えに出遭おうとする態度が表されています。とても大切な言葉で、仏教のどの宗派にもあります。今回もこのお話です。

御命日のつどいは、どなたでも気軽にお参りできる「つどい」です。お数珠と『浄土真宗学習ノート』・勤行本だけお持ちいただければ大丈夫。日時は28日午前10時30分から11時40分までです。

なお、『浄土真宗学習ノート』をお持ちでない方には、当日プレゼントしています。是非この機会にお参りください。

行事のご案内

6月の行事

本山講のご案内

本山講法要を勤めます。本山講とは、岡崎教区第４組（豊橋・豊川・新城の地域）の真宗大谷派寺院と豊橋別院を含めた17カ寺が一堂に会しての法要です。毎月十八日に17カ寺を会場としながら勤めていることから、「十八日講」とも呼ばれます。

御住職方と一緒に正信偈・念仏・和讃をお勤めした後、ご本山御門主からの御消息（お手紙）拝読があります。その後二カ寺のご住職様からご法話がございます。

なお、このご法要への「志」は不要です。

日時　6月18日（火）
午後1時30分から法要

法話
正琳寺様（豊橋市）
仁長寺様（豊橋市）

7月の行事

本堂仏具のおみがき

7月の正願寺盂蘭盆会法要に向けて御仏具のおみがきとお掃除をします。「おみがき」とは、主に真鍮製の仏具の汚れを磨いて取り、綺麗な御仏具でご法要をお迎えするための行事です。お掃除等もあります。汚れても大丈夫な服装でお気軽にご参加ください。

始まり時間は目安です。

その後、お茶とお菓子の茶話会があります。

日時　7月8日（月）
午前9時から
1時間ほど

正願寺盂蘭盆会法要

「お盆」と言われている行事は、『盂蘭盆経』というお経に説かれている物語が元になっています。

その物語は、次の通りです。

御釈迦様の弟子に神通第一とされていた目連という方がおられました。目連は、神通力を使って亡き母がどうしているかを見ました。すると、母はなんと餓鬼道に落ちて苦しんでいました。骨と皮ばかりの姿になった母に食べ物をあげようとしても、すべて炎になってしまいます。

困り果てた目連は、お釈迦様に助けを求めました。お釈迦様は「人に施すことをせず、自分勝手な人間だった。だから餓鬼道におちたのだ」とさとしました。目連はお釈迦様の教えに従い、7月15日に諸仏衆に供養して、その功徳によって、餓鬼道におちていた母は救われたのです。これがその物語りです。

正願寺ではそのお経に説かれている通り、7月に盂蘭盆会を勤めております。勤行の後、法話がございます。

日時　7月15日（月・祝）
午後1時30分

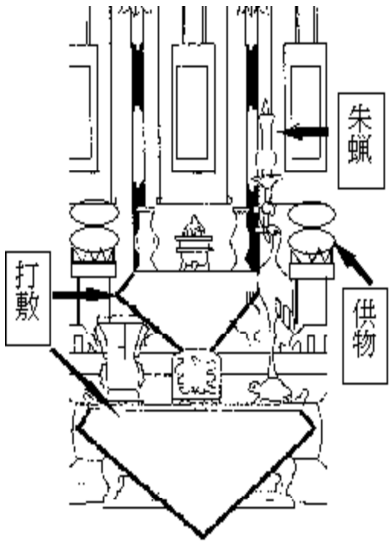
法話　鈴木　聡師
（安城市明水寺住職）

お盆のお参りについて

お盆のお参りについてご案内いたします。今回は、お内仏（仏壇）の支度や飾り方についてお伝えします。

浄土真宗では、お盆を盛大な法要としてつとめるということがありません。お盆のときに亡くなった人が帰ってくるのではなく、普段から私たちと共におられるという教えです。日ごろのお参りを大切にします。浄土真宗では特別な事をしないという事です。しかし、実際の勤め方にはその地方ごとの独特な習慣や形態があったりもします。

あえて特別に用意するものといえば、お内仏（お仏壇）の前に提灯は用いず、切籠灯篭（左写真）を用意することもあります。これは必ず必要というものではありません。



その他の飾り方については年忌法要に準じます。左図をご覧ください。お年忌やお盆は「打敷」という三角の飾り布を掛けますが、夏向きのものがあればそちらを用います。机の上の板の下に挿み込むようにして飾ります。今は、お内仏の形式や大きさが色々ありますので、分からない時はお寺までお尋ねください。

正願寺再建記念のつどいの報告

5月11日に開催しました「正願寺再建記念のつどい」には多くの方が正願寺に足を運んで下さいました。ありがとうございます。

初めての取り組みの「おゆずり会」も沢山の出品物があり、心配された残留品も、ほとんど何も残りませんでした。

来年も「おゆずり会」を開催する予定です。来年に向け出品物を宜しくお願いします。

譲先生からは、「道路で迷わないためのカーナビのように、人生にはアミダ様の道案内（アミダナビ）が無ければ」「自分が救われるチャンスは、ピンチの顔してやってくる」と話された言葉が印象に残ります。

その後のコンサートも「生の音はいいなあ」という感じ。

お願いした能登半島地震の義援金も、２６０３３円集まり、東本願寺に寄付出来ました。ありがとうございました。

お寺でのお参りについて

お寺での行事の時には、アルコールで手を消毒し、これから暑くなりますが、心配な方はマスクの着用も義務ではありませんがお願いします。

あとがき

最近思うこと、その3。今、高血圧・高血糖・尿酸値抑制の3種類の薬を飲んでいます。これからの事を考えると、今のうちに少しでも薬を減らしたいと思っています。さあ今から、私には南無阿弥陀仏がそう聞こえてきます。

再建記念の集い、来寺頂いた方、ご協力くださった方、有難うございました。初事ばかりの取り組みとなりましたが、楽しんでいただけたでしょうか？十一月にはもう一度、譲先生の法話とバンドの演奏があります。ぜひ、またお参り下さい。その前に本山講、盂蘭盆会、お彼岸、お磨き、御命日。お待ちしてますね。